

第1号様式

令和6年度 第2回 保土ヶ谷区障害者地域自立支援協議会 担当国会議 議事録	
日時	令和6年11月5日(火) 14:00 ~ 16:15
開催場所	かるがも2階会議室
出席者	<p>&lt;事務局&gt;石田(夢21)、市川・久保・佐藤雄・明田川・芳垣(保土ヶ谷区役所 高齢・障害支援課)、平良(保土ヶ谷区生活支援センター)、島田・早坂(ほどがや 希望の家)、相原(恵和相談室)、大竹(保土ヶ谷区社協)、遠藤・田村・朝倉(保土ヶ谷区基幹)</p> <p>&lt;各部会長(担当者)&gt;</p> <p>武藤(カルガモの会:自主製品販売)、竹内(当事者部会)、小池(港北病院:精神net)、高桑(いわまワークス:まちで暮らす)、金山(こども家庭支援課:こども余暇)、原氏(ピース和田町:こども部会)、力石(トラック:ほっとらんど)、菅田(虹の会:防災部会)</p> <p>&lt;拠点事業所&gt;</p> <p>田中氏(わおん相談)、楠田氏(横浜市福祉サービス協会 保土ヶ谷介護事務所)、若山氏(たちほどがや)、鈴木氏(すみれ園)、樋口氏(のぼら園)、佐野氏(恵和青年寮)、岩山氏(ゆめ)</p>
欠席者	
開催形態	公開(傍聴人: 名) ・ <u>非公開</u> 記録:
議題	<p>司会進行: 区 議事録: 恵和</p> <p><b>1. 第2回全体会(10月1日実施)の報告 /14:00-14:10</b></p> <p>報告者/ 石田(夢21)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当日の参加者は64名。</li> <li>・地域生活支援拠点の説明、横浜市は既存の社会資源を使った面的整備を進めることを確認した。</li> <li>・グループワークをテーマごとで実施した。</li> </ul> <p><b>【専門的人材の確保・育成】</b></p> <p>人手やヘルパーの不足は深刻。複数事業所で取り組む必要性を感じる。生活介護では支援提供時間の明記が必要になり、研修等も難しい状況がある。</p> <p><b>【相談、緊急時の受け入れ・対応】</b></p> <p>緊急とは何か、各分野ごとに認識を確認した。ワンストップの相談体制や専門職チームがあると良い</p> <p><b>【体験の機会・場、その他居住支援】</b></p> <p>不登校の生徒が増えている。</p> <p><b>【地域の体制づくり(ほっとなまちづくりも絡めて)】</b></p> <p>警察との連携の必要性。高齢分野では認知症の方の対応等で関わりがある。</p> <p><b>【報酬改定の情報・対応の共有(BCP含む)】</b></p> <p>学校との連携の難しさを感じる。送迎ドライバーの不足は共通する課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保土ヶ谷区一斉アクション、区制100周年に向けての取り組みについて、参加者へ説明をおこなった。</li> </ul>

・まとめ

高齢分野ではケアプラザが拠点となっており、地域とのつながりも強い。障害分野では基幹相談や生活支援センターと地域とのつながりを深め、実態を把握していく必要性を感じる。こども分野との連携も課題である。地域生活支援拠点、ほっとなまちづくりの両方を考えていく必要がある。

**2. 各部会の意見交換 /14:10-14:30**

○販売部会について

・販売会が広がってきていて、よろず相談も実施されるようになった。何か変化は感じられるか。(早坂)

→売り上げがあがっていて、区との協力が進んでいると感じる。星川駅販売では「支援学校に通っていて、今後のために見に来た」という親子もいた。部会では、保土ケ谷支援学校に星川駅販売のチラシを配るなど関わりを深めている。(武藤)

・星川駅販売のため学生(国大生)に声をかけたがうまくいかなかった。どのようにアプローチしていくのが良いか(武藤)

→左近山団地では国大生のボランティアが多く入っている。(空き部屋で不登校の子に勉強を教えるなど) 学生のやりたいこと、興味のあることに乗っていき、学生が考えられるようにすると良いのではないか。(田村)

○ほっとランドについて

・ほっとランドの運営が厳しいが、何か協力できることはあるか(遠藤)

→売り上げなどお金の面では厳しいことは事実であり、コーヒーの値上げなども考えている。地区センターからも声をかけてもらっており、出張を再開したいが人手が厳しい。売り上げが多くないことが参加事業所が増えない一因ではないか。(力石)

→当事者にとって貴重な場ではあるが、赤字になってしまっては良くない。ケアプラザなど販売が見込める所へ出張するのは一つの手である。(田村)

→ほっとランドに参加する事業所だけでなく、自立支援協議会全体で考えていきたい。(遠藤)

○おしごとフェアについて

・おしごとフェアの現在の進捗について(石田)

→日程が決まり、出展は締め切っている。当日の案内係ができる人を募集している。活動ホームゆめで実施するようになってから地域の人参加が増えた。地域の掲示板にお知らせをだしたい。人材確保・育成のために大切な機会であると捉えている。(島田氏)

○地域生活支援拠点として登録している事業所について紹介

出席者の項目と同様

・質問や意見等

部会同士のコラボをやっていきたいと考えている。(田中)

・地域生活支援拠点の届け出について説明。(遠藤) 配布資料を参照。

### 3. グループワーク/14:30-15:30

※各グループファシリテーター：事務局メンバー

グループワークのテーマ：「全体会で出た課題（メゾ・マクロ）に対する意見・アイ

デア出し」

・説明（5分） ・4グループに分かれてワーク（45分） ・共有（10分）

#### ○1、3グループ

相談、緊急時の受け入れ、人材育成・確保

課題

- ・家族支援の視点を持った相談員の育成
- ・福祉に繋がっていない人とどうつながっていくか
- ・精神障害の方が安心して利用できる短期入所が少ない  
アイデア
- ・24時間対応をとっている事業所同士がつながる
- ・個別の短期入所やショートステイセンターの整備
- ・急な短期入所でも受け入れられるよう、人員を確保できる仕組み、加算等
- ・連絡・相談先のネットワークづくり（短期入所施設、地活、病院）
- ・里親制度の活用

#### ○2、4グループ

体験の機会・場、地域の体制づくり、その他居住支援等

課題

- ・引きこもりや、法律にあてはまらない人の居場所
- ・24時間の見守りや医療的ケアができる体験先がほしい
- ・個人に合わせた形の体験の場が欲しい
- ・見えにくい障害、見た目で見えない障害をどう伝えていくか

アイデア

- ・集団生活か入院、ではなく気軽に使えるところをつくる
  - ・当事者と一緒に何かする、機会を共有することで気持ちを理解し、地域でどう生活していくか考える。
  - ・困った時に助けを求められる、近所の人をつなぐパイプ役をつくる
- 今回でた意見は各自持ち帰って自法人でできるか、連携してできるか等検討する。  
次年度の整備計画にのせて実行していく。

### 4. 区制100周年について【検討】/15:30-16:05

#### ○保土ヶ谷区高齢障害支援課 市川係長より説明

令和9年に保土ヶ谷区は区制100周年を迎えるにあたり、周年行事をおこなう予定。

3つのテーマ（つながり、こども、魅力）ごとに部会を作り、団体登録することによっていずれかの部会に所属する形になる。

#### ○グループでアイデア出し

- ・100にちなんだイベント。100人でけん玉、大声大会 目指せ100db

- ・有名人を呼んでイベント
  - ・スタンプラリー
  - ・キッチンカー、フードコート
  - ・パレード、当事者参加で楽器を鳴らす
  - ・当事者の演劇、スポーツ大会
  - ・事業所と地元企業のコラボ 等
- 自立協として、部会で、事業所で、どのように実施していけるか検討する。

5. その他 共有事項等 /16:05-16:15

- ・令和6年度報告書・令和7年度計画書作成の件 遠藤氏（保土ヶ谷区基幹）

2月28日	報告書・計画書提出メ切 ※基幹へメールで送付
3月5日	第3回担当者会議で共有

- ・3機関定例カンファレンスの件 遠藤氏（保土ヶ谷区基幹）  
12月11日（水）9:30~12:00 場所：かるがも会議室  
各部会の部会長または担当者、自立協事務局、3機関が揃って次年度の地域生活支援拠点整備計画の原案を作成。出席者について各部会での調整をお願いいたします。

6.

自立協ホームページの件（HP 担当者参加） /16:15~16:45

進行：田村（保土ヶ谷区基幹）

参加者：三文字・前沢（保土ヶ谷区生活支援センター）、濱田（川島 CP）、力石（トラック）、武藤（かるがもの会）、金井（ゆめわーく）、朝倉・早川・芝・遠藤（保土ヶ谷区基幹）

次回担当者会議：3月5日（火）14:00~16:00

場所：区役所本館5階会議室（※かるがも2F会議室から変更）